

## 仕様書

ロボット・A I 部

### 1. 件名

NEDO プロジェクトを核とした人材育成、産学連携等の総合的展開／自動走行ロボットを活用した配送サービスを普及・発展させていくための人材の育成・交流・研究の活性化に係る特別講座

### 2. 目的

新型コロナウイルス感染症による影響で、ラストワンマイル物流において、宅配要望の急増、配達員の感染等による影響により、ドライバー不足や配送の一時的な停滞が発生している。引き続き、国内においても新型コロナウイルス感染症による影響が懸念されており、ラストワンマイルにおける「遠隔・非対面・非接触」での配送ニーズ増加や配達員不足が見込まれる中での対応策として、自動走行ロボットを活用した新たな配送サービスの早期実現が求められている。

このような中、2019年には官民による協議会が立ち上がり、ロードマップの策定及び社会受容性の向上のために必要な措置、必要なルールの在り方、求められる安全性等についての検討が進められており、更に NEDO では、2020 年度より「自動走行ロボットを活用した新たな配送サービス実現に向けた技術開発事業」において、技術開発・実証・社会受容性向上に取り組んでいる。このように、新たな配送サービスに向けた取り組みは進められているが、実証によって得られた知見としての安全性確保に最低限必要な性能や、サービスの在り方に関する検討内容などが個事業者のみに留まっており、普及に向けた必要なルールの在り方、求められる安全性の統一化に時間を要している。

そこで、本特別講座では、自動走行ロボットを活用した新たな配送サービスの実現を進めるための人材の育成事業を実施する。「自動走行ロボットを活用した新たな配送サービス実現に向けた技術開発事業」で得られた成果を整理し、セミナー形式等により公表することで、機体の安全性確保に必要な性能や社会受容性向上の指針等に係る情報を、自動走行ロボットを活用した配送サービス事業を計画する事業者等に提供する。また、サービス実現を加速させるための人的交流を実施するとともに、運用の安全基準や機体の安全性検証方法等に係る周辺研究も行う。

### 3. 内容

「自動走行ロボットを活用した新たな配送サービス実現に向けた技術開発事業」採択事業者が行う実証内容を整理し、公表することで、機体の安全性確保に最低限必要な性能や社会受容性向上の指針等の情報を、NEDO 事業採択企業や新たに自動走行ロボットを活用した配送サービス事業を計画する企業に提供し、サービス実現を加速させる。また、自動走行ロボットを活用した配送の実現に向けた官民協議会を通して自動走行ロボットを活用したサービスの向上に資する情報の提供などにも貢献する。更に、その際に必要となる技術開発や、機体の安全性検証方法の確立・実施も同時に行う。具体的には以下の（１）～（３）を一体的に実施する。

#### (1) 人材育成の講座の実施・人的交流等の展開

体系的なセミナー等を開催して、人材を育成すると同時に、当該分野を将来にわたって支える人

材育成の仕組みづくりを行う。なお、講座について、年に5回以上のセミナーを開催する。

(2) 「自動走行ロボットを活用した新たな配送サービス実現に向けた技術開発事業」実証結果のとりまとめ

事業者が行った実証に関して、その内容と結果、残された課題を整理し、(1)での人材育成講座等に生かす。

(3) 周辺研究等の実施

(1)や(2)で必要な周辺研究を適宜実施する。

#### 4. 期間

NEDOが指定する日から2023年2月28日まで

#### 5. 予算額

2021年度から2022年度までの2年間の総額：5,000万円以内

(1年目から2年目まで各年間2,500万円以内)

#### 6. 報告書

2021年度末には中間年報を、2022年度終了後には成果報告書を所定の期日までに提出。

提出方法：「成果報告書・中間年報の電子ファイル提出の手引き」に従って提出のこと。

[http://www.nedo.go.jp/itaku-gyomu/manual\\_tebiki\\_index.html](http://www.nedo.go.jp/itaku-gyomu/manual_tebiki_index.html)

#### 7. 報告会等の開催

委託期間中又は委託期間終了後に、成果報告会における報告を依頼することがある。

以上